

住みよい まちづくり通信



道町連 No. 85

●発行日 平成28年12月5日
●発行 一般社団法人
北海道町内会連合会
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目
北海道社会福祉総合センター
☎(011)271-3178 FAX(011)271-3956
E-mail: info@d-choren.or.jp

ホームページ簡単検索 [北海道町内会連合会](#) [検索](#)



▲主催の挨拶をする北海道町内会連合会 長谷川会長

安心・安全をめざした住民主体の地域づくり

平成28年度ブロック別町内会活動研究大会の報告

平成28年度ブロック別町内会活動研究大会が道内4ブロックにおいて、町内会関係者約840名の参加を得て開催されました。大会は、本会からの基調説明、続く、講演はブロック別に講師を招き、「住民主体の地域づくり、地域の絆と支えあい」をテーマにご講演いただきました。その後の分科会では、各開催地で選択したテーマ別に、実践報告を受けて協議を行い、最後に分科会報告が行われました。

道央	と き：10月20日・21日 と ころ：千歳市北ガス文化ホール	道東	と き：9月28日・29日 と ころ：帯広市とかちプラザ
<p>●講師 長谷川 聡 さん（北海道医療大学看護福祉学部准教授）</p> <p> 介護保険制度の改正によって、住民も地域の高齢者の介護予防の担い手になることを踏まえううえで、ご自身が暮らす札幌市北区拓北・あいの里地区において設立した「ケア施設町内会」を紹介いただきました。ケア施設町内会は、福祉施設や専門職の方で構成され、住民との合同勉強会や連合町内会と連携した活動により、住民と福祉施設・専門職との交流が生まれ、地域でボランティア活動が盛んになった等、実践的なお話をいただきました。</p>			
道南	と き：10月12日・13日 と ころ：ホテル函館ロイヤル	道北	と き：10月6日・7日 と ころ：ANAクラウンプラザホテル稚内
<p>●講師 西浦 功 さん（札幌大谷大学社会学部地域社会学科准教授）</p> <p> 地域づくりでは、制度や設備を整えるよりも、少しでも多くの住民に活動に関わってもらい、巻き込むことが成功の秘訣であること、特に高齢男性には、地域の活動に参加するとともに助けられ上手になっていただくこと等を提言いただきました。さらに、助け合いには、寄り添って話を聞く等、様々な切り口の方法があること、人が好きでよく人に関わろうとする「世話焼きさん」を地域で見つけ、町内会活動に協力していただくことの大切さ等についてお話をいただきました。</p>			

目次	平成28年度ブロック別町内会活動研究大会の報告 …………… 1~4	平成28年度町内会活動実践者研修会の報告 …………… 6~7
	ひとりの不幸もみののがさない住みよいまちづくり全道運動 …………… 5	道町連からのお知らせ …………… 8
	災害に強いまちづくり全道運動 …………… 5	

分科会テーマ①

町内会の福祉活動に
ついて考える

道央 くサロン活動で高齢者の健康を守る

はじめに、千歳市北栄南町内会より、福祉委員会を中心としたサロン活動等について報告がありました。毎週火曜日の介護予防サロンでは、健康体操や食事会を行うほか、毎月のふれあいサロンでは、出前講座やビンゴ大会、カラオケ等で楽しみながら高齢者を見守っています。また、福祉委員会では、高齢者名簿と福祉マップの更新、災害時要援護者の現状把握、ひとり暮らし高齢者等の除雪支援も行い、安心な生活を支えているとの報告でした。その後の意見交換では、地域の福祉施設職員と懇談をして交流をもちたいとの意見が出されたほか、パークゴルフ等に熱心で元気な高齢者が増えたので、町内会の見守り活動に参加していただいているとの事例、老人クラブの活性化に協力して介護予防をすすめているとの事例等が紹介されました。



道南 く全ての世代が安心して暮らせる地域に

はじめに、函館市万代町会より、若い世代や高齢者の社会参加を促進する様々な活動について報告がありました。僧侶が終活問題等の相談に乗る「悩み相

談」のほか、「高齢者生きがいづくり」として軽運動やカラオケの集まり、菜園での野菜づくりを実施。また、「交流サロン」を2名の当番制で運営し、料理教室や麻雀、食事会等で交流を深めているとのこと。さらに、認知症予防に役立つ問題集や軽運動を取り入れた「脳と身体の活性化教室」のほか、地域の大学生に協力をお願いしての餅つきや節分の豆まき、近隣小学校と連携して毎週開いている「放課後クラブ」等、多世代の交流と学びを実践しているとの報告でした。その後の意見交換では、活動の担い手不足で福祉活動に取り組めないとの課題について、民生委員児童委員と連携して活動している事例、参加してくれそうな若い人を常時積極的に探している事例、地域の学校に相談して学生に活動の手伝いをお願いしている事例等が紹介されました。



道東 く住み慣れたまちで
誰もが安心して暮らせる地域づくり

はじめに、帯広市共愛町内会より福祉部の取り組みについて報告がありました。福祉部の活動では、高齢者を対象とした卓球やゲートボールなどのクラブ活動の充実はもちろん、子どもたちが安全に遊べるように、町内にあるちびっこ広場の



定期的な整備点検のほか、遊具は5年以内に新しいものにしていくとのこと。また、町内会のある西帯広地区で結成された「人にやさしいまちづくり推進協議会」についても紹介がありました。この協議会は、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくことへの理解と普及をはじめ、福祉施設や教育機関、町内会による地域連携と交流を目的に設立されたものです。その後、地域包括ケアの仕組みについて、行政から町内会への説明や対応についての情報交換が行われ、参加者の多くの地域ではあまり進んでいない状況が確認されました。

分科会テーマ②

町内会の防災活動に
ついて考える

道央 く公的な救助に頼らず自主防災活動を

はじめに、千歳市町内会連合会より、町内会や行政、自衛隊、防災関係機関等が参加して毎年行われている総合防災訓練について報告がありました。訓練では、倒壊した建物や土砂に埋まった車からの救出訓練、応急処置訓練等を通じて、災害時に公的な救助が来る前の住民による自主防災活動の重要性を学んだとのこと。さらに、別会場では、子どもを対象にした新割りや簡易炊飯、土のう作り等の体験型訓練を



行ったとの報告でした。その後の意見交換では、役員の高齢化のため災害時の対応が心配との課題について、防災活動に子どもと親の参加を促す、住民に防災意識向上のPRが必要との意見が出されました。また、災害時には携帯電話がつかないに困るのでトランシーバーが良い連絡手段となるとの意見、避難所ではなく親戚や知人のもとへ避難する方も多いので、事前に行政や町内会に避難先を申告できるようにしてはどうか等の意見が出されました。

道南 く地域みんなが要援護者を支援

はじめに、函館市高丘町会より、災害時の避難支援、防災協定等について報告がありました。町会では、高齢者へのアンケートで67名が災害時に援護を必要としているという結果を受け、介護士や警察OB等を含む住民164名を支援者として名簿を作成。町内地図に要援護者と支援者の自宅に印をつけ、役員で情報を共有しているとのこと。さらに、福祉施設等との防災協定を結び、避難者の一時受け入れ、緊急時の人的派遣等で相互協力したうえ、福祉施設と合同の防災避難訓練を実施したとの報告でした。その後の意見交換では、避難所となる学校の鍵をダイヤル式にして、災害時は住民が避難所を開錠できるようにした事例、行政が助成をして自主防災組織の立ち上げを支援している事例、防災ラジオを各家庭に安価で提供している事例等が紹介されました。



道東

安心して暮らすために 災害に備えた対応を確認

はじめに、大樹町双葉町町内会での防災活動の取り組みについて報告がありました。町内会では、災害時に備えて、災害対応の手引きの作成や避難経路と避難場所を確認したほか、行政と協力して実施した防災講習会では、非常食の試食や消火器の取り扱いを学んだとの報告がありました。全体を通して、個人情報管理の難しさについて意見が多くあり、個人情報管理の取り扱いは、町内ルールを決めて管理することや信頼関係の構築が大切であることが確認されました。



道北

黄色いハンカチは避難済みの目印

はじめに、稚内市こまどり町内会より、自主防災活動の取り組みについて報告がありました。役員会で災害時の町内会の対応に必要なことを話し合い、行政の協力のもと、土砂災害研修や災害図上訓練(DIG)、炊き出しの研修会や避難済みの目印を玄関先に掲げる「黄色いハンカチ」等に取り組んできました。さらに、今後の取り組みとして、日ごろから顔の見える関係づくりのため、町内会行事への積極的な参



分科会テーマ③

町内会の育成について考える

加を呼びかけることや近隣の町内会との連携も考えているとの報告がありました。その後の意見交換では、今後の防災活動に活かすため、避難訓練を行う際の道路使用申請の方法のほか、防災訓練でより多くの参加を促すために、訓練参加者の年齢層や開催日時等の情報交換が行われました。

道央

中学1年生の町内会役員が活躍

はじめに、千歳市白樺町内会より、中学1年の女生徒の青少年体育部副部長就任について報告がありました。この女生徒は、小学校で児童会副会長も務めた経験があり、優しくて面倒見が良い性格のうえ、以前から町内会行事に積極的に参加していたとのこと。町内会では役員の高齢化が課題で、会長が女生徒に役員を打診したところ「はい、やります」と即答してくれたとのことでした。就任後は、ラジオ体操のリーダーとして、かわいらしいPR看板を作り、同級生に声をかけ参加を増やすことに成功し、女生徒の活躍は新聞やテレビで全道に紹介されたとの報告でした。その後の意見交換では、集合住宅で町内会加入を戸別にお願しても断られることが多いので、管理会社や管理組合と話し合い、入居者に町内会紹介



のパンフレットを配布して町内会費を自動引き落としにした事例、新規入居があればすぐに町内会の説明に伺い、全世帯加入を維持している事例が紹介されたほか、人口減で維持管理が難しくなった町内会館について、複数町内会での共同管理等の解決策が話し合われました。

道東 く加入促進は関係機関と協力しながら

はじめに、帯広市大和第二町内会より、町内会の交流事業について報告がありました。町内会では、会員同士が楽しく親睦する「ニコニコ和の会」やパークゴルフ大会の開催、花いっぱい活動のほか、子どもたちの見守り活動も行っているとのことでした。町内会活動をすすめる上での悩みとして、町内会役員の担い手不足や町内会行事への参加が減ったことがあげられました。その後、町内会加入促進について意見交換が行われ、マンション管理者の協力のもと、家賃とあわせて町内会費を納めてもらっている事例紹介のほか、宅建業者と連携し、大学生や若者を対象に町内会加入を呼びかけている事例が報告されました。



道北

く声かけ・意見交換で

町内会の活性化につなげる

はじめに、稚内市恵比須町内会から、町内会の活性化に向けて実施した「あすへの集い」について報告がありました。この「あすへの集い」は、町内に住んでいる

20代〜40代の若い世代を対象に、町内会の役員が参加の声をかけを行い、当日は、軽食を用意し、カラオケやゲーム等を交えながら、町内会役員と若い世代が自由に意見交換を行ったとのことです。その結果、数年間中断していた町内会の盆踊りを再開することができ、さらには、この集いをきっかけに、新たに5名の町内会役員が誕生したとのことです。その後の意見交換では、あいさつからはじめて、顔見知りになり町内会行事の参加を呼びかけている事例のほか、「まちの声」を実感してもらうために、行政職員への町内会活動参加の積極的な呼びかけをしている事例等が紹介されました。



分科会テーマ④

町内会の環境・衛生活動について考える

道南 く生ごみの水切りを徹底してごみを減量

はじめに、函館市町会連合会より、家庭ごみの減量について報告がありました。函館市では、燃やせるごみの3割以上が生ごみで、そのうち8割が水分のため、ごみの減量の要は生ごみの水きりとして、水切り器具を行事の際に無料配布しているとのことでした。さらに、生ごみを出さない工夫として、食材を買いすぎない、食材は最後まで使い切る、作り過ぎず食べ残さない等の啓発をしているとの報告でした。その後の意見交換

では、予算をかけずに廃材を利用してごみ収集所を作っている事例、生ごみ減量の講習会を年数回実施し、目に見える減量につながった事例、生ごみを堆肥化して家庭菜園で利用している事例等が紹介されました。



道北

く地域をきれいに

ふれあいと成功体験を通じて

はじめに、稚内市白樺町内会より、小学生との共同清掃活動である「クリーン作戦」について報告がありました。この「クリーン作戦」は、小学生に呼びかけをしてもらう等、町内会役員や会員とのふれあいの場にもなっているとのことでした。清掃の最後には、町内会役員より「今日は一緒に町内をきれいにしてくれてありがとう」とメッセージを送り、子どもたちの成功体験を通して、心の成長につなげている事例が紹介されました。さらに、小中学生が高齢者宅へお弁当を届ける「ふれあいランチ」の事業も実施しており、子どもたちの育成にも役立っているとのことでした。その後の意見交換では、ごみステーションの管理について、14種類のごみの分別を30年かけて定着させた事例や、ごみステーションの設置ではなく、各個人宅前でごみ収集をしている事例等が紹介されました。



<実践活動のメニュー>

- ①啓発活動
 - 健康教室、栄養・料理教室 ○悪質商法被害防止研修会
 - 交通安全教室 ○住民福祉懇談会 ○福祉だよりの発行
- ②交流活動
 - ひとり暮らしの高齢者等との会食会・茶話会・交流会
 - お年寄りと子どものつどい ○ふれあいサロンづくり
- ③在宅福祉サービス活動
 - 声かけ訪問活動 ○除排雪活動 ○配食サービス活動
- ④ネットワークづくり
 - 町内会助け合いチームづくり ○防犯パトロール活動
 - 災害時要援護者のための体制づくり
 - 消費者被害防止ネットワークづくり
- ⑤マンパワー養成
 - 認知症サポーター等の養成研修会 ○介護教室
- ⑥調査活動
 - ひとり暮らしの高齢者マップ調査 ○高齢者ニーズ調査

現在、予算の範囲内で、平成28年度活動費助成の二次募集をしています。左記のような活動を行っている町内会がありましたら、所属の連合会組織を通じてお問合せください。



活動費助成の二次募集

北海道町内会連合会では、町内会・自治会に、ひとり暮らしの高齢者等への見守り・声かけ・助け合い活動を実践していただくことを運動目標に「ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動」を平成2年度から北海道社会福祉協議会、北海道共同募金会の三者提唱によりすすめています。

町内会助け合いのネットワークを応援

ひとりの不幸もみのがさない
住みよいまちづくり全道運動

平成27年度の事例

～気軽に集って仲間づくり～

ふれあいサロンづくり

遠軽町南町第2自治会

遠軽町南町第2自治会(240世帯)では、地域の高齢者の閉じこもりを防ぎ、仲間づくりのきっかけになるよう、ふれあいサロン運営委員会が、社会福祉協議会の協力を得て、ふれあいサロンを開催しています。

1回目のサロンでは、陶芸に挑戦し、参加者は粘土を好みの形に切り取り、お皿の形に仕上げていきました。その後は、警察署員と保健師からの講話があり、振り込め詐欺防止のポイントや健康で暮らし続けるための生活習慣について学びました。

それからのサロンでも、「手打ちそば実演試食会」「秋の収穫祭・石狩鍋づくり」等、毎回楽しく参加できるような企画を工夫するとともに、「自転車の交通ルール」「介護保険のポイント」等の生活に役立つ講話を交え、月1回開催しています。毎回およそ30名が集まり、高齢者が気軽に交流できる場として地域に定着しました。運営委員会では、「より多くの方に集まってもらえれば」と、なかなかサロンへ参加されない高齢者に声かけ訪問をしてお誘いする等、日ごる閉じこもりがちの高齢者にもサロンでの交流を楽しんでいただけるよう努力を続けています。



▲陶芸を体験、なかなか難しい!



▲手打ちそばのコツを教わりました

《研修会のメニュー》

- 自主防災組織研修会や組織づくりのための会議
- 防災講習会、炊き出し訓練、防災マップづくり
- 災害図上訓練(DIG)
- 避難所運営ゲーム(HUG)
- 応急手当研修会、救急救命研修会
- 災害時要援護者世帯調査・マップづくり
- 安心・安全関係者ネットワーク会議



本助成事業は、連合会や単位町内会が主催する「防災訓練」や「自主防災組織研修会」に対して2万円の助成をしています。本年度は、100組織が実施する研修会等に対して助成しました。内容は、地震を想定した災害図上訓練(DIG)や、応急手当を実践する救急救命研修会、避難所運営訓練、自主防災組織づくりのための研修会等が取り組まれています。

災害に備えた地域の助け合い、支え合いを応援

災害に強いまちづくり全道運動

北海道町内会連合会では、全国各地で度重なる台風や地震、豪雪、豪雨等による被災を教訓に、「災害に強いまちづくり」をテーマにした研修会等への助成事業を通じて、災害時に住民が助け合える安心・安全な地域づくりを推進しています。

自主防災に取り組み100町内会に2万円を助成
防災活動研修会支援助成事業

江別市高砂町自治会(500世帯)では、12月未明の大地震を想定し、避難所運営訓練を実施しました。はじめに、参加者は、町内の公園から避難所となる会館まで徒歩で避難し、車いすの方等の要援護者の避難介助を体験しました。会館では、総務情報班、避難誘導班等、事前に決められた5つの班に分かれ、避難所運営の役割分担や必要な情報・物資等について話し合いました。その後は、段ボールを使った仕切り壁づくり、牛乳パックでの紙鍋づくり、備蓄食品の炊き出し等体験。訓練を通して、参加者は災害時のそれぞれの役割を認識していました。



▲仕切り壁が上手にできました

平成27年度の事例

～5つの班で円滑な避難所運営～

避難所運営訓練

江別市高砂町自治会

応急・救命手当ハンドブックのご案内



A5判・17ページ (平成25年9月発行)

本ハンドブックは、家族の急病や活動中の事故等で、その場に居合わせた方々が助け合って適切な手当ができるよう、応急手当と救急車到着までの救命処置をまとめました。在庫の範囲内で一部50円での頒布をお受けしています。

北海道町内会連合会事務局

TEL 0111-2711-3178
FAX 0111-2711-3956

平成28年度 町内会活動実践者研修会の報告

シリーズ ⑰ 町内会における見守り活動のすすめ方

平成28年度町内会活動実践者研修会は、平成28年8月5日、札幌市において、道内各地から109名の参加を得て実施されました。本年度は、誰もが安心して暮らせる地域をめざして、町内会における見守り活動のすすめ方を学びました。

実践 報告

「地域の見守り活動について」をテーマに、4団体から報告をいただきました。

町内会

清田区新平岡町内会総務部長の芳賀正俊さんから、「高齢者見守り事業」について報告いただきました。



はじめに、個人情報取り扱いの研修を受けたうえで、社会福祉協議会から名簿の提供を受け、見守り対象とした75歳以上のひとり暮らしの方等のご自宅に印をつけた地図を作成しました。その後、町内会役員や班長、民生委員児童委員等で分担しての見守り訪問を開始。訪問時には、詐欺被害防止のチラシや町内会行事の案内を持参し、交流を図っています。また、3カ月ごとの活動報告会で、情報を共有し、一人で抱え込まずに無理のない見守り活動を継続しているとの報告でした。

民生委員児童委員

富良野市民生委員児童委員協議会の松田尚美さんから、「支



え合いマップを使用した見守り活動」について報告いただきました。近所の住民が集まって情報を出し合い、住宅地図に要援護者と周辺住民の関わり合いを線で結ぶ「支え合いマップ」を作成し、関わり合いの線が引けない人は「気になる人」として重点的に見守っているほか、災害時の避難支援にも役立っているとの報告でした。

老人クラブ

帯広市老人クラブ連合会で友愛委員会委員長を務める遠藤雅美さんから、「友愛活動による見守り訪問」について報告いただきました。



友愛委員会では、帯広市内の各単位老人クラブで2名の推進員を決め、ひとり暮らしの高齢者、高齢者夫婦等を訪問し、安否確認や話し相手となる活動を行っています。訪問は月1回以上、複数人で行い、友愛活動記録票に様子を記録・集計。3カ月ごとに各地区で学習会・親睦会を行い、情報の共有と推進員の交流を図っているとの報告でした。

社会福祉協議会

千歳市社会福祉協議会の船尾圭一さんから、「地域見守りネットワーク事業」について報告いただきました。



千歳市社会福祉協議会では、新聞販売や郵便等の配達業務を行う事業者と連携し、配達先の高齢者宅等で異変に気づいたら、社会福祉協議会へ連絡してもらおうネットワークを構築しました。これにより、高齢者等を日ごろからさりげなく見守り、問題の早期発見、対応を図っているとの報告でした。

安心・安全のための啓発パンフレット

「はじめませんか？見守り活動」を

発行しました(平成28年9月発行)

本研修会の内容を簡単にまとめたパンフレット「はじめませんか？見守り活動」を発行し、会員の各町内会にお送りいたしました。このパンフレットには、見守りの手順やポイント、コミュニケーションのコツや活動事例等が掲載されています。本会ホームページにパンフレットのPDFデータを掲載していますので、ご活用ください。



見守りで役立つ！ コミュニケーションのコツ

良いコミュニケーションのために

- 話をする時の自分のくせに気づきましょう。
- 自分の嫌いなタイプ、苦手なタイプで緊張していませんか？
- 相手を主語にすると攻撃的になります。
(例) あなたは声が大きすぎます。
- 自分を主語にするとソフトになります。
(例) 私は少し小さい声のほうが好きです。
- 他の人の困りごとに付き合うには、自分に心身のゆとりが必要です。



コミュニケーションのコツ (基本的態度)

- ほほえみの表情で。でも会話中に笑すぎないで。
- 相手を見ながら話を聴きましょう。威圧感がないように、口元や首元に視線を置くといいでしよう。
- 話しやすいと思う人の真似をしてみましょう。
- 相槌を打ちましょう。
(「うなずき」と「合いの手」)



(パンフレットより抜粋)

講義

テーマ：町内会における
見守り活動のすすめ方

講師：播本 雅津子氏

(名古屋市立大学保健福祉学部看護学専攻科教授)

●見守りは困っている人を 気にかけることから

私は大学で保健師教育をしており、保健師になった



ら、すぐに担当地区の町内会長へ挨拶に行きなさいと学生に教えています。新人の保健師は家庭訪問の教育を受けていますが、地域とのつながりや活動経験がないので、町内会の皆さんに、若い保健師にぜひ協力していただければと思います。

見守り活動は、地域の結びつきが薄くなり必要性が高まったという一方で、昔より国民の生活水準が向上し、健康問題や困りごとを抱える住民をまわりが気にかけるようになったからその活動ともいえます。介護保険の制度とあわせ、そのような方々を地域で見守っていくという動きであり、社会が良くなってきたと考えてみましょう。

●高齢夫婦二人暮らしも見守りが必要

昔は、水汲みや薪割り等の家庭内労働が大変でしたが、今はひとりで楽に暮らせるようになり、少子化がすすむ中、ひとり暮らしの高齢者が増えています。ひとり暮らしの高齢者の見守りは当然必要ですが、高齢夫婦二人暮らしの場合でも、お一人が病弱の世帯は負担が大きいため見守りが必要です。また、定年退職した方には、ぜひ町内会役員になっていただき、家族にも心配をかけず、自分も健康に暮らせるように活動していただけたらと思います。

●積極的に外出してもらえ工夫を

高齢化率の高い地域を悪く捉えがちですが、高齢者は自宅周辺に居る時間が長いいため、安定したコミュニケーションだとも考えられます。北海道は農林水産業に関わり体がかかりしている方が多いので、退職後も町内会活動や庭いじりで体を動かせば、健康寿命を伸ばしていけます。また、高齢者にとつて、生活の中でいかに足腰を鍛えるかがとても大事なことで、見守り訪問で健康を確認した後は、積極的に外出してもらおう方法を考えましょう。

●前向きな声のかけ方

高齢者の交通事故は、自宅から800メートル以内が多いそうです。よく知らない場所は、信号を守り横断歩道を渡りますが、近所では「ここは斜め横断しても大丈夫」等のマイルールで行動してしまう傾向があります。これに対して「ここを斜め横断したらダメ」と言うのではなく、「あちらの横断歩道を一緒に渡りましょう」と、前向きな声のかけ方を身に付けましょう。見守られる方も活動する方も幸せに暮らすのが見守りの目的なので、声のかけ方等も工夫するとうまくいきます。また、高齢者に運転免許の返上を勧めるときは、「もう運転をやめなさい」と言うよりも、免許を返上した方に町内会で卒業式をやると良いと思います。警察署長等から証書を渡され「おめでとう」と言われたら悪い気はしないのではないのでしょうか。

●見守られ上手になりましょう

60代から見守り活動に参加していると、上手に見守られる70代80代になれます。上手に見守られる方が多くなると10年後の見守り活動がとても楽

になります。見守られる年齢になっても毎朝ラジオ体操に行く等して、元気なことを周りにアピールできるような高齢者になれたら良いと思います。

●見守り活動のコツ

見守り活動では、まず住民同士が顔見知りになり、日ごろから声をかける練習をしましょう。また、おそろいのジャンパーや帽子を被つて見守り活動をすると、巡回の防犯効果、見守られる方の安心感、活動する方の一体感につながります。また、困っている人を探すのではなく、お互いが元気であることを確認する感覚で見守りましょう。私は学生に、気になる人がいたら、その人が困っているのかを考える前に、相手の顔を直接見て元気なことを確認し、自分の心配を解消するようにと教えています。安否確認をした結果、元気で取り越し苦労だったとしても笑って済む話です。

●声かけでは雑談を

見守りで声をかけるときには、質問をするより雑談をした方が良いと思います。「お元気ですか？大丈夫ですか？」と答えられて話が終わってしまいます。相手が話さないときは、まずは自分のことを話しましょう。そうしていると相手も自分のことを話してくれるようになります。コミュニケーションのコツをつかんで、皆さんの地域での見守り活動に役立てていただきたいと思います。



▲各地域の見守り活動について話し合い



帯広市の内田秀雄さんが
秋の叙勲・旭日単光章(地方自治功労)を受章されました

—— 町内会・自治活動への功績に対する受章 ——

内田秀雄さん(帯広市・北海道町内会連合会元副会長)が
永年の町内会活動への御功績に対する旭日単光章を受章されました。おめでとうございます。
晴れの伝達・拝謁式は、去る11月9日に執り行われました。

平成28年度地縁による団体功労者総務大臣表彰
受賞おめでとうございます

平成28年度総務大臣表彰式
が、去る11月29日、総務省講
堂で行われ、本会から推薦の
磯部正博さん(北斗市)が永年
の町内会活動の功績に対して
表彰を受けられました。



▲磯部正博さん

平成28年度全国自治会連合会会長表彰
受賞おめでとうございます

平成28年度全国自治会連合会
表彰式が、去る11月10日、全
国自治会連合会宮城県仙台大会の席上行われ、北
海道からは小林保さん(天塩町)と沼田常好さん
(千歳市)が町内会活動の功績に対して表彰を受け
られました。



▲約1,000名が参加した宮城県仙台大会



▲沼田さん(左)と
小林さん(右)

創立記念のお祝い
関係者の皆様おめでとうございます

創立
50周年

江別市自治会連絡協議会様
会長 佐藤 功/昭和41年12月設立

創立
10周年

洞爺湖町自治会連合会様
会長 福井 政吉/平成18年8月設立



全道の町内会活動を支える 道町連共済のご案内
～活動中の事故が多い冬に備えて～

●安心して町内会活動に参加いただくために

道町連共済は、町内会・自治会活動中に事故にあ
われた時、見舞金を支給する北海道町内会連合会の
会員相互の助けあい事業です。一人年200円の会費で
最高200万円の見舞金を支給しています。

●事故発生の時期が多い12月～3月

12月～3月は、広報や回覧板配付中に凍結路面で滑
って転ぶ事故が多く発生しています。冬になる前
に、今一度、道町連共済への加入の検討をお願いし
ます。

●冬の見舞金支給事例

傷害見舞金 会長として、除雪費の徴収をしてい
たところ、足を滑らせて、路上で転倒。右肩を痛
め(右肩腱板断裂)、入院と通院あわせて10万円と
診断書料5千円が支給されました。

●お問合せ先 北海道町内会連合会
TEL 011-271-3178 Fax 011-271-3956
詳細はホームページで⇒<http://www.d-choren.or.jp>



台風等による大雨災害のお見舞い

平成28年8月20日からの台風等による大雨は、
道北・道東を中心に道内各地に大きな災害をもた
らしました。被災された皆様にご心よりお見舞い申
し上げます。一刻も早い復旧復興をお祈り申し上
げます。

まず、本会が出来ることとして、北海道共同募
金会の呼びかけに協力し、「災害義援金の募集」
を正会員・準会員組織に平成28年9月6日付けで
呼びかけさせていただきました。今後も、引き続
き、安心・安全をめざして本会として出来る取り
組みを考えていきたいと思っています。

◆今後の会議等の予定◆

H29.2月 平成28年度市区町村町内会・自治会事務担当者会議/札幌市
H29.5.23 平成29年度全道町内会活動研究大会/札幌市
H29.5.24 平成29年度北海道町内会連合会総会/札幌市